

福祉施策の充実や企業誘致が移住に好影響

県は、5月17日に令和2年国勢調査結果の速報値を公表。県内27市町村のうち、人口増加率で総社市が1位となりました。

総社市の人口総数は6万9106人で、前回調査した平成27年と比較して2251人の増加。増加率は前回の1.0%から3.4%に上がりました。

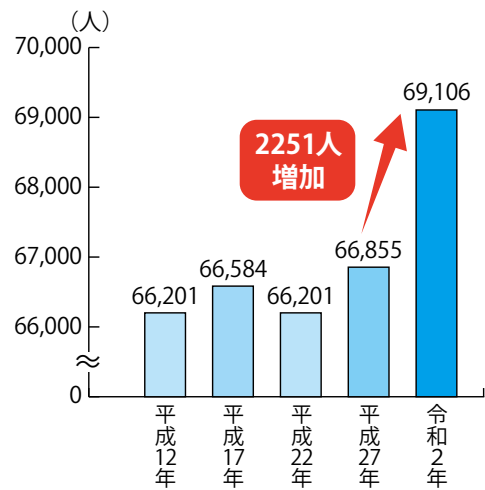
市では、全国屈指の福祉文化先駆都市の実現を目標に、子育て環境や社会保障の充実、道路や交通網の整備、企業誘致などさまざまな施策に取り組み、移住者を増やしてきました。引き続き、全ての市民にとって住みやすいまちづくりを進め、令和7年度までに人口7万5000人の達成を目指します。

令和2年岡山県人口増加率

順位	市町村名	%
1	総社市	3.4
2	早島町	1.8
3	岡山市	0.8
4	里庄町	0.3

※他23市町村は、いずれも人口減少

総社市の人口推移



人事異動

5月26日付で人事異動を発令し、新型コロナウイルス感染症対策室に主事級職員1人を配置しました。また6月1日付で、同室に課長級から課長補佐級までの職員3人が異動。自宅療養者の支援を担います。

課長級以上の職員は、以下のとおりです。

【課長級】
▼保健福祉部健康医療課主幹・保健福祉部新型コロナウイルス感染症対策室主幹 田口大介

問い合わせ 総務課職員係（☎028220）

新型コロナウイルス感染症対策に補正予算 5月臨時市議会で可決

5月31日に5月臨時市議会が開催され、4900万円の増額となる令和3年度一般会計補正予算が可決されました。

主なものは、新型コロナウイルス感染症の独自支援策として行うもので、自宅療養者からの医療相談を吉備医師会に委託する経費1326万4000円、自宅療養者に食材や日用品などを購入し宅配する経費500万円、入院が必要な人を受け入れる医療機関への補助金2000万円などです。

問い合わせ 総務課行政係（☎028218）

平成30年7月豪雨災害3周年式典のお知らせ

日時 7月6日(火)、午前11時30分
場所 美袋排水ポンプ場付近（美袋32-2）
問い合わせ 復興推進室（☎028570）

総社市への移住・創業を支援する サポートセンターを開設

総社市と吉備信用金庫、総社商工会議所、総社吉備路商工会で結んだ移住・創業支援に関する連携協定に基づき、5月19日に総社移住・創業サポートセンター（通称・S-スタ）を窪木地内に開設。移住・創業のワンストップ相談拠点として活用していきます。

S-スタは、無料の公衆無線LAN・Wi-Fiを備えており、コワーキングスペースとしても使用できます。

問い合わせ 企業誘致商工振興課（☎028276）

開所日時 9:00～17:00 ※土・日・祝日を除く
場所 窪木890-4（旧吉備信用金庫東支店）
電話番号 95-2127
ホームページ <https://sumousoja.jp/>

そうじゃ 復興レポート

西日本豪雨の
復興状況などを
お伝えします。

西日本豪雨で被害を受けた下原地区に

浸水を防ぐ

排水対策ゲートが完成

昨年8月に着工した下原砂古地区の排水対策ゲートが完成し、5月14

日にしゅん工式が行われました。

同地区は西日本豪雨の

際、高梁川の増水により新本川が逆流し、内水氾濫が発生。約30ヘクタールの農地や家屋が浸水被害を受けました。排水対策ゲートの設置により、逆流を阻止し浸水を防ぎます。

式で市長は、「この排水対策ゲートで災害に強い地域にして、住みやすい社会をつくっていききたい」とあいさつ。下原自治会の小西安彦会長は、「30年以上前から大雨のたびに浸水して困っていたので、感謝している」と話しました。

ゲートは鉄鋼製のスライド式で、電動で開閉。閉鎖後に内水氾濫が起きた場合に備え、排水処理を行う可搬ポンプも整備しました。

問い合わせ 農林課工務係（☎028296）

今月で西日本豪雨から3年

被災者への支援や

復興事業は続く

7月6日で、平成30年に起きた西日本豪雨から3年を迎えます。

昭和地区美袋で整備している復興住宅は、6月15日現在で13棟（26戸）のうち7棟が完成。仮設住宅で暮らしていた人が既に入居しています。7月末までに工事が終了し、残る住宅は市営住宅として活用される予定。

そのほか、高梁川の堤防強化事業や伐木、内水対策用排水ポンプ・ゲートの整備などを実施中。今後、市民の皆さん一人ひとりに寄り添いながら、復興と新たなまちづくりを進めていきます。

問い合わせ 復興推進室（☎028570）



高さ5.4mの水門。作動時には青色のゲートが下りる



建物の基礎や外観、屋根を強化した復興住宅



下倉地区草田の堤防。右奥の日羽地区でも築堤工事が進む